

平成30年度女性活躍推進事業【山形県】

1. 女性のキャリア形成・管理職登用支援事業

- (1) 女性管理職養成プログラムフォローアップ調査
- (2) 女性管理職養成プログラム
- (3) やまがたウーマノミクス・ネットワーク形成事業

2. 地域女性活躍応援事業

- (1) 最上地域：女性活躍気運醸成事業
- (2) 置賜地域：ワーク・ライフ・バランスセミナーの開催
- (3) 庄内地域：多用な働き方セミナーの開催

3. イクボス普及・拡大事業

- (1) イクボス同盟の普及・拡大
- (2) イクボス同盟加盟企業を対象とした研修会等
 - ①企画・運営チーム
 - ②情報交換会
 - ③イクボス研修会
 - ④コンサルティング事業

1. 女性のキャリア形成・管理職登用支援事業

(1) 女性管理職養成プログラムフォローアップ調査について

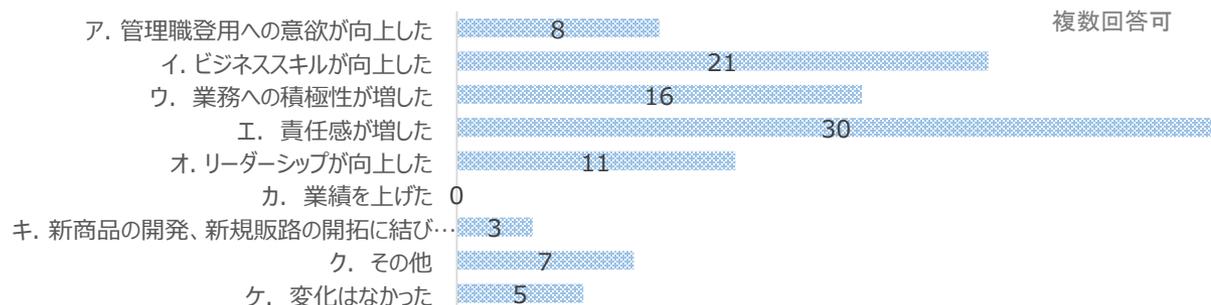
ア. アンケート調査の実施

平成27年度～29年度までの3年間の修了生と送り出し企業を対象としたフォローアップ調査を実施。
対象者と回収率：修了生83名うち回答者数64名（77.1%）、送り出し企業63社うち回答社数36社（57.1%）

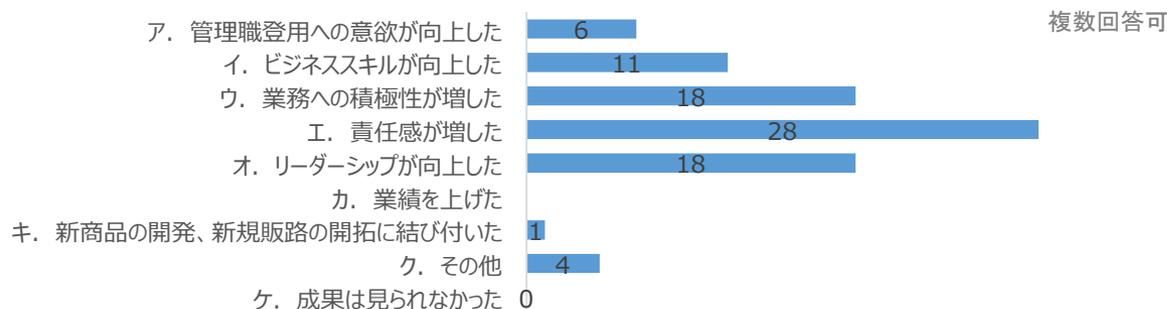
◆プログラム終了後、昇進又はキャリアアップへ向けた配置替えがあったなど、人事上や業務上における変化があったと回答した修了生の割合 38%（24名）

（24名のうち、昇進 16名（ほか新店舗の立ち上げ、担当管理部門が増えたなど8名）

◆プログラム終了後、働き方や資質面での変化があったと回答した**修了生**の割合 92%

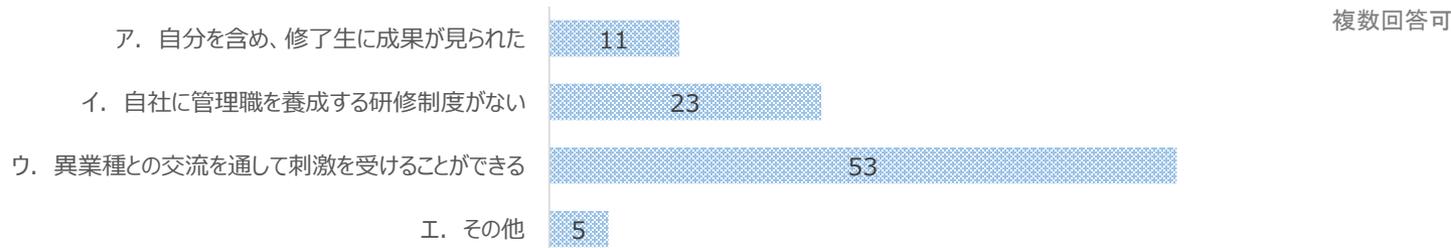


◆プログラム終了後、働き方や資質面での変化があったと回答した**送り出し企業**の割合 100%



1. 女性のキャリア形成・管理職登用支援事業

◆修了生のうち、1名を除き全員が「今後も管理職養成を目指す研修が必要だ」と回答し、その理由は次のとおり、異業種の交流を通して、刺激を受けると回答した方の割合が、8割を超える。



◆修了生達の声 抜粋

❖「家庭との両立の難しさ等、会社経営者や管理職へのセミナーが必要。」❖「上司の意識改革も必要。」❖「对企业に対する研修が必要。」❖「ワーク・ライフ・バランスを男女問わず学ぶことは必要であるが、女性管理職のみ特別に研修して増やすことには疑問がある。」❖「男性の働き方は変わらないのに、女性が管理職になってしまうのは女性の負荷が大きい。」❖「男性の働き方改革、家庭での役割の意識改革が必要。」❖「女性自身が活躍したいと思える環境づくりが必要。」❖「管理職となった場合、不安にならないようワーク・ライフ・バランスの研修などで、女性社員のやる気を出していかなければならない。」❖「心の持ち方だけでなく、具体的な実践力を身に着ける研修が望ましい。」

◆調査結果を踏まえた今後の方向性（予定）

○女性のキャリア形成・役員・管理職登用支援

- ⇒ 企業経営者や管理職向け、経営戦略としての女性の活躍推進をテーマにした塾の開催（全3回）
- ・異業種交流会の充実（研修の場と交流の場の提供）

○企業のワーク・ライフ・バランスの促進

- ⇒ ・イクボス同盟企業向けトップセミナー、人事労務担当者向け研修会の開催

○業種・役職に応じた研修機会の提供・支援

- ⇒ ・県をはじめ、やまがた女性活躍応援連携協議会構成団体などで実施される研修を広く情報発信
- ・山形いきいき子育て応援企業への研修派遣支援金の交付による支援

1. 女性のキャリア形成・管理職登用支援事業

イ. 平成27年度～29年度までの3年間の優良事例集を作成。

【事例1 Oさん 広報・秘書担当】

- 研修を通して、「視座を上げる」という気づきにより、マインドやリーダーシップ力が向上。若手社員を引張っていくという立場を再認識し、社員研修の企画などに意欲的に取り組まれている。

【事例2 Aさん 女性の少ない理系技術部門を経て、現在総務部長に就任】

- 研修を通して、女性ならではの調整役になるリーダーシップがあることを知り、チームワークを発揮してモノ作りができるような人間関係を構築したいと、潤滑剂的な役割を目指して活躍されている。

【事例3 Mさん デザイナーを経て、マネージャーに就任】

- 現場で抱えていた多くの課題に対して、研修で出会ったポジティブアプローチの手法やファシリテーションの技術を自ら学び、メンバーが自分ゴトで取り組むチーム作りへ取り組まれている。

1. 女性のキャリア形成・管理職登用支援事業

(2) 女性管理職養成プログラム

県内企業等で中堅として働く女性 20名 参加

△

考え、管理職として必要なビジネスセンスや実践力を身に付ける

ため、講師による講演と多彩なワークを取り入れた全3回の講座を開催。

第1ターム：H30.8.22（水）

(株) 日本マンパワー
研究開発専門課長
小出 真由美 氏

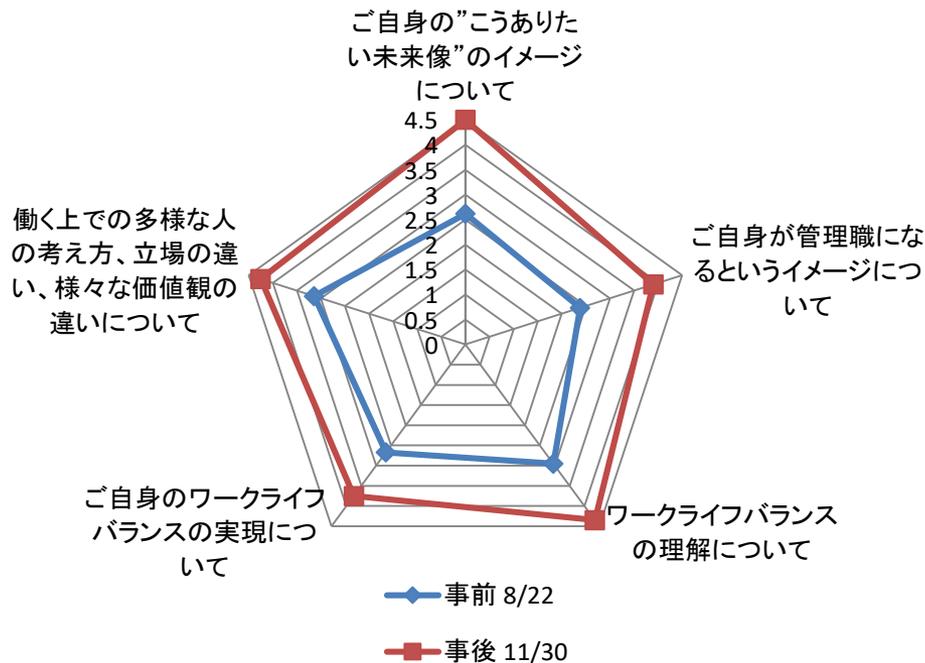
第2ターム：H30.9.26（水）

(株) 働きかた研究所代表取締役
平田 未緒 氏

第3ターム：H30.10.22（月）

(株) Bマインド代表取締役
関根 近子 氏

御自身が管理職になるというイメージについて ※参加者アンケートより



《参加者の声》※アンケートより一部抜粋

- ・自分の意見をアウトプットすることが多くなり、様々な部署の方とコミュニケーションを取りながら仕事ができている。
- ・ポジティブに行動することの大切さと、未来は自分で切り開いていけるということを学んだ。
- ・参加した皆さんと自分の目標を共有することで、目標に向けて意識的に行動するきっかけができた。



1. 女性のキャリア形成・管理職登用支援事業

(3) やまがたウーマノミクス・ネットワーク 形成事業

H30.11.12 (月) 山形国際ホテル 約80名参加

県内で働く女性が交流し、悩みや課題を共有し、ロールモデルのアドバイスをいただくことで、モチベーションアップや意識改革につなげ、リーダーや管理職として活躍できる人材を育成するもの。

第1部

オープニングスピーチ

関根 近子 氏 (株) Bマインド代表取締役
「言葉との出会い、素敵な人との縁が人生を輝かせる」

アンケートより

講演会の内容について
非常によかった
よかった
73%



第2部

ロールモデルによる事例発表とワールドカフェスタイルでの参加者同士の意見交換。

南出 摩理 氏 (株) フロット
安孫子 律子 氏 東ソークォーツ (株)

事例発表について
非常によかった
よかった
97%



第3部

やまがた秋のスイーツ交流会

交流会について
非常によかった
よかった
94%



※アンケートより
参加者の声

- ・ロールモデルの事例発表を聞いて、働き方に対する考えが変わった。
- ・異業種の方と交流ができて、沢山の経験談を聞くことができ、色々な考え、解決方法があると気づき、実践できたらと思った。
- ・自分の考え方を变えて、職場で協力者を増やして働きがいのある会社になるよう、少しずつ取り組んでいきたい。
- ・このようなフォーラムは女性活躍への意識を高めることに繋がるので、今後も続けていただきたいと思う。

2. 地域女性活躍応援事業

H30.6.3 (日) 新庄市雪の里情報館
19名参加

(1) 最上地域：女性活躍気運醸成事業

【事業概要】

地域での草の根の活動として、輝きたい女性のためのプチ講座を開催し、男女共同参画の知識を得る機会を作る。また、モバイル版ホームページにより、最上地域において活躍している女性の「ロールモデル」を紹介していく。

【ホームページ】

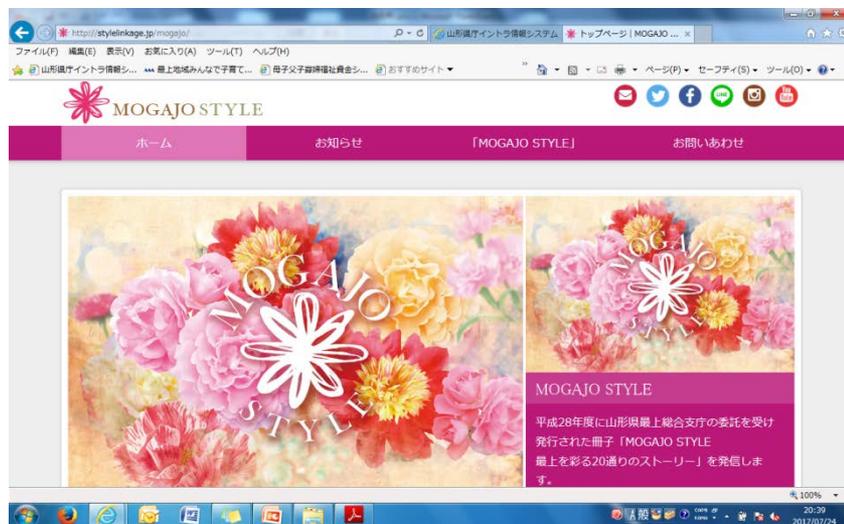
H29.6月～H31.1.31 セッション総数 2,600 (目標：2,000件)

【事業効果】

「ジェンダーという言葉は初めて知った」、「職種・役割で男女差がある」などの感想の声があり、男女共同参画の基礎知識や、最上地域で活躍している女性の周知が図られた。

【今後の取組みの方向性】

最上地域で活動している女性の生き方・暮らし方の情報を提供していくとともに、より実践的な社会参画に向けた講座を実施する。



2. 地域女性活躍応援事業

(2) 置賜地域：置賜地域ワーク・ライフ・バランスセミナーの開催

H30.11.16 (金)
山形県立米沢女子短期大学

女性活躍や子育て支援などに積極的に取り組まれている県内企業からの具体的な取組事例の紹介や、「男女共同参画」及び「女性活躍推進」について男女共同参画推進員による講演を内容とするセミナーを実施。
(参加者：学生、企業担当者、行政関係者等 計59名)

事業効果

管内企業に身近な成功事例を知ってもらうことで、企業の取組みに対する意識の向上や自社の取組みへの参考とするなど導入の拡大を図った。学生等へは、ワーク・ライフ・バランスの考え方の普及・啓発を図り、社会人生活に向けての参考としてもらい、生活と仕事の相乗効果を知ることにより、自身が目指す働き方への意識付けを深めてもらった。

【目標値】

セミナー参加者数 100名

セミナー参加者満足度 70%

管内の山形いきいき子育て応援企業数増 5社増

【実績値】

59名

89% (アンケート結果より)

5社増

(H30.3 時点 101社→H31.1時点 106社)



※アンケートより 参加者の声

- ・先進的な企業の具体的な取組みが聞いて参考になった。
- ・これから仕事をしながら家庭も両立させるには、どうしたら良いかを考えるきっかけになるセミナーだった。
- ・ワーク・ライフ・バランスが実現できるのは理想だが、小さな会社では難しいと思う。
- ・「イクメン」、「イクボス」早くこれらの言葉が聞かれなくなるような、(それが)当たり前の中になっしてほしいと思った。

2. 地域女性活躍応援事業

(3) 庄内地域：多様な働き方セミナー

H31.1.28 (月) 荘銀タクト鶴岡小ホール 参加者約50名

庄内地域の企業の経営者や管理職などを対象としたセミナーを実施。働く人のワーク・ライフ・バランス実現と女性活躍推進のため、企業における多様な働き方に関する意識の向上や制度改革の推進を図る。

参加者満足度

90%

(目標値80%)

【第1部】講演

講師 高橋 聡子氏 (さと社会保険労務士事務所 代表)

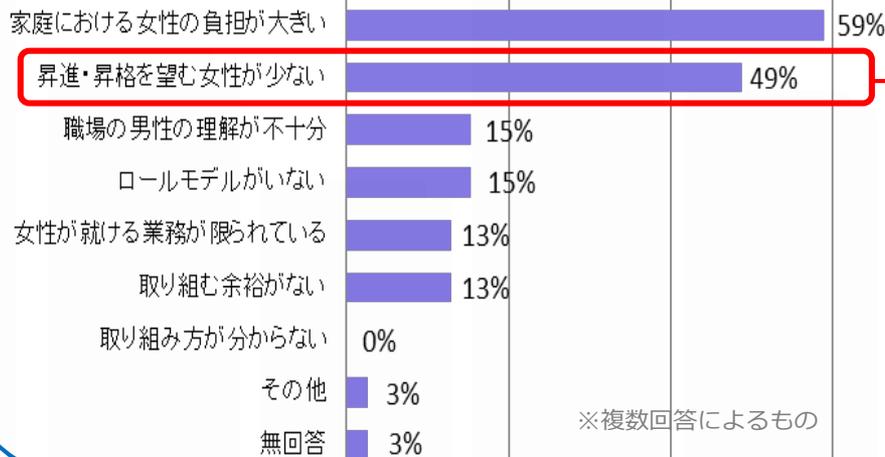
「働きやすい職場づくりで、業績アップ! ~多様で柔軟な働き方への改革を目指して~

【第2部】事例紹介

山形航空電子株式会社 (新庄市) 社会福祉法人恵泉会 (鶴岡市)

■参加者アンケートより

Q.女性の活躍推進に取り組むうえで課題と感ずることは何ですか？



回答した割合が約半数



今後の課題

女性自身の働き方に対する意識向上に向けた取組みも必要である。

